



日本プライマリ・ケア連合学会
中部ブロック支部 活動報告

発行人：宮崎 景
事務局 〒467-8601 名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1
名古屋市立大学 総合診療医学・総合内科学 内
E-mail: keimiyazaki.md@gmail.com

ニュースレター No. 55 (2026. 9) 本号の編集担当者 中橋 毅

【支部情報】

●今後の予定

1) 2026 年度第 4 回ぎふ総合診療カンファレンス

2026 年 10 月 7 日 (水) 20:00~21:00

開催：オンライン (Google Meet を使用)

2) 『第 3 回日本プライマリ・ケア連合学会 富山県支部会』

2026 年 11 月 8 日 (日) 13:30~17:00

会場：富山大学附属病院

3) 北陸総合診療懇話会 2026

日時：2026 年 11 月 14 日 (土) 14:00 - 17:00

会場：金沢大学附属病院 CPD センター

4) 『第 15 回日本プライマリ・ケア連合学会中部ブロック学術集会』

2026 年 11 月 29 日 (日) 会場：レイアップ御幸町ビル 5-D 会議室 (JR 静岡駅 徒歩 3 分)

開催形式：ハイブリッド開催 (第 1、2 部は LIVE 配信あり、第 3 部は現地のみ)

第 1 部 一般演題

第 2 部 シンポジウム「災害とプライマリ・ケア」

第 3 部 ワークショップ「持続可能な総合診療の発展に向けて」

演題募集 締切 10 月 13 日 (火) <https://forms.gle/zKw3UVKRX3ScJgfp7>

参加登録 締切 11 月 13 日 (金) <https://forms.gle/KDcRLw7NRQNMelwt8>

5) 『中部ブロックポータル発表会*2027』

2027 年 3 月 13 日 (土) ZOOM によるオンライン開催

【各県の活動報告】

●石川支部

【活動報告】

1) 第 13 回あなみず地域医療塾

日時：2026 年 8 月 2 日 (日) 09:00~16:30

場所：さわやか交流館プルート (石川県穴水町)

参加：指導医 1 名、医師 3 名、薬剤師 3 名、看護師 15 名、看護学生 12 名

内容：チーム医療による地域の災害時の医療支援シミュレーションセミナー

能登半島地震を経験した穴水町では健康弱者に対して医療・介護が協力して支え続けることができる体制を災害時も維持することが求められるようになってきている。今回の医療塾では原子力災害やエネルギー危機による輪番停電などを想定した在宅医療のシミュレーションを行った。また、災害時にも活用できるオンラインシステムの研修も



含まれている。最後には公立穴水総合病院リハビリテーション科の影近謙治先生による「地域におけるヘルスプロモーション」の特別講演があった。



【報告事項】

特になし

●富山支部

【活動報告】

■臨床研究勉強会

富山大学では毎年6回程度臨床研究勉強会を開催しています。

6月8日に今年度第2回目の研究勉強会を開催しました。今年度は、富山大学附属病院総合診療科と関係の深い、ごちゃまるクリニックの小浦友行先生・小浦詩先生との合同研究プロジェクトを予定しています。今回はそのキックオフミーティングを兼ね、小浦友行先生から震災・豪雨災害を経験した輪島のプライマリ・ケアの現状や問題点についてご紹介いただき、研究テーマをディスカッションしました。今後も地域の課題に向き合いながら、研究を進めていきたいと思ひます。小浦友行先生、小浦詩先生、ありがとうございました！

■オフラインポートフォリオ発表会

富山、新潟の総合診療専攻医の方々を対象に7月18日にオフラインポートフォリオ発表会を開催しました。専攻2年目以降の専攻医がポートフォリオを発表し、研修医・専攻医・指導医の先生方からフィードバックを受けました。後半には富山大学総合診療科プレゼンツのウェルネス企画として、日々行っている振り返りについて改めて学ぶワークショップも行いました。仲間と顔を合わせて学びを共有し、ポートフォリオをさらにブラッシュアップする良い機会となりました。

■高村先生の日野原賞受賞

富山大学医学教育学講座教授、総合診療科科長の高村昭輝先生が、日本医学教育学会の医学教育賞「日野原賞」を受賞されました。日野原賞は、医学教育に関する活動・業績を通して、わが国の医学教育の発展・普及に多大な貢献をされた方に贈られる権威ある賞です。高村先生のこれまでの医学教育への貢献が評価されたことを、富山支部としても大変うれしく思ひます。高村先生、おめでとうございます！

■今後の予定 第3回日本プライマリ・ケア連合学会富山県支部会

11月8日(日)13時30分～17時に、富山大学附属病院管理棟3階大会議室にて、第3回日本プライマリ・ケア連合学会富山県支部会を開催します。今回は「そのモヤモヤ、一緒に紐解きませんか」と題し、天野雅之先生をお招きして特別講演をいただきます。プライマリ・ケアに関心のある方であれば、職種や学会員の有無を問わず、どなたでも無料でご参加いただけます。

また、特別講演終了後には一般演題発表を予定しています。日々の診療・研究・教育の取り組みなど、総合診療・プライマリ・ケアに関連する幅広いテーマを募集しており、医師以外の多職種や学生の皆さまからのご応募も歓迎

します。演題募集期間は9月7日（月）～10月17日（土）正午です。

本会では、専門医・認定医更新のための 3 単位、Off-the-job トレーニング（臨床）3 単位、プライマリ・ケア認定薬剤師 2 単位が認められています。なお、当日 12 時 45 分～13 時 15 分には、同会場で富山県支部総会を開催します。皆さまのご参加をお待ちしております！

参加申し込み：

https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSe4h4pDB4gC7sHB_xw7pMXlARFQ_zzfCLcHpywgJyR19dobSQ/viewform?usp=dialog

一般演題応募：

https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSfIfFdjslCopNBHcGtCj6dFc_XVKpEtIM-7LbBjo3sxEHX60w/viewform?usp=header

※演題発表者も別途参加申し込みが必要です。

●福井支部

【活動報告】

1) 夏だ！海と地域医療体験ツアーin 高浜 開催！

毎年恒例、海浜救護所での救護体験と診療所等での地域医療体験を組み合わせた、医療系学生・若手専門職向けの人気のツアー、「夏だ！海と地域医療体験ツアーin 高浜」が今年も開催されました！アジアで初めてビーチの国際環境認証「ブルーフラッグ」を取得した高浜町の若狭和田ビーチに、全国各地から4週間で合計17名が集結し、地域医療&海を濃厚に感じていただきました。<http://www.wadashin.com/education/tour.php>



2) 2026.8.7 福井大学オープンキャンパス 模擬講義を行いました

昨年に引き続き、オープンキャンパス模擬講義を行いました。テーマは「教室で倒れた!?熱中症とアナフィラキシーから学ぶ救急初期対応」です。熱中症の病態や初期対応、熱中症になりやすい人とは、アナフィラキシーはどのように判断するのか、などについて講義を行いました。本学総合診療・総合内科センターが開催している本学医学生限定勉強会 Choi+ (ちょいたす) や本学内に開設しており本学医学生であれば体験可能な VR ラボについてもお話しました。



3) えいえいぼ一始動！

・2026年6月のフレイルサルコペニアチェックを皮切りに、永平寺町と福井大学地域医療推進講座と永平寺町がコラボ企画の体操教室「えいえいぼー！」が始まりました。当診療所と志比南公民館とインストラクターの先生の教室をオンラインでつないで、2026年6月～6カ月間、毎週火曜日1時間行っています。もともと当診療所では、年に1度フレイルサルコペニアチェック検診を行っていましたが、実際の体操・運動の機会を提供できず、5年余りが経過してしまいました。永平寺町では筋トレ教室や、地域でこつこつ体操、百歳体操など様々な体操教室が行われていましたが、当診療所も地域のみさんの健康度アップの場所として活用していただきたいという我々の想いもあり、永平寺町にかけあい、地域医療推進講座や保健師さん、役場職員、そして当院スタッフの協力をいただき、構想から半年余りで実現することができました！初回の6月は私も参加させていただき、教室を通じて心も体も元気になれることを痛感しました！各会場内だけでなく、画面も通じて会話ははずみ、身体フレイルサルコペニアの予防だけでなく、社会的フレイルの予防にもつながっているようです。今後も体操教室の前に、オーラルフレイル予防で、保健師さんから栄養教室も予定しています。また12月には開始前同様、フレイルサルコペニア検診を行い、半年の活動を評価する予定です。永平寺町は筋骨格系疾患が、主治医意見書に多く取り上げられると、保健師さんからお聞きしておりましたが、このような活動を通じて、地域のみさんの健康寿命が延びていくお手伝いができればと思っています。



●静岡支部

【活動報告】

1. 「藤枝みんなのクリニック」藤枝市家庭医療センター

令和8年4月の開院から4か月が経過し、8月からは、予防接種と4ヵ月児・10ヵ月児の乳児健診を開始しました。

教育の面では、基幹病院の藤枝市立総合病院の初期研修医の地域医療研修の受け入れも開始し、総合診療や家庭医療の実践的な取り組みを学ぶ場を提供しています。

2. 第28回しろわカフェ開催／御前崎市家庭医療センターしろわクリニック 2026年7月16日(木)

7月16日(木)に第28回しろわカフェを開催いたしました。しろわカフェは市民向けの公開講座です。

今回は「今日からできる快眠習慣～からだところを休める眠りの整え方～」をテーマに、専攻医3年目の医師2名がペアとなって講師を務めました。

「睡眠衛生」をキーワードに 日光と一日のリズム など5つの分野に分けて知っておきたい知識や心がけたい習慣などをわかりやすく解説していただきました。

身近なテーマ設定のおかげか、多くの聴衆の方に関心を持ってお集まりいただきました。過去最高を大幅に上回る市民の方にご参加いただき、大盛況のうちに終了いたしました。



3. 医学生7名が来院 静岡県西部病院見学バスツアー／菊川市家庭医療センター 2026年8月3日(月)

令和8年8月3日(月)、静岡県地域医療支援センター西部支部主催の「静岡県西部 病院見学バスツアー」が開催され、菊川市家庭医療センターにも7名の医学生が見学に訪れました。

当日は、センター長が院内を案内したほか、家庭医療指導医として「なぜ家庭医を目指したのか」について自身の経験を交えながらお話ししました。また、学生向けの見学ワークシートを活用し、「診療所の日」「病気だけでなく、暮らしを診る」「地域をつなぐ」をテーマにグループワークを実施。学生同士で意見を出し合い、最後にはそれぞれのグループから発表していただきました。

今回の見学を通して、医学生の皆さんが地域で人々の暮らしを支える医療の役割や、地域医療の必要性・大切さについて考えるきっかけとなれば幸いです。



※「静岡県西部 病院見学バスツアー」は、医学生が静岡県西部地域の医療機関をバスで巡り、各施設の役割や地域医療の現場に触れながら、将来の進路について考える機会を提供する取り組みです。



4. 高校生4名が来院 こころざし育成セミナーを開催／菊川市家庭医療センター 2026年8月14日(金)

令和8年8月14日(金)、静岡県が実施する「こころざし育成セミナー」の一環として、4名の高校生が菊川市家庭医療センターを訪れました。本セミナーは、医師を志す高校生が実際の医療現場や医療者に触れ、医師になることの意義や将来について考える機会です。

当日はセンター長が院内を案内し、往診バッグの中身を紹介したほか、院内の見学をもとにワークシートを使ったグループワークを行いました。また、センター長から「患者さんの話を聞き、症状の裏に隠された困り事や心配事を聞き取ることが大切」と、家庭医療の魅力や自身の経験について話しました。最後には「あなたの夢を叶えてください！」というメッセージも。

今回の体験が、高校生の皆さんにとって医療や家庭医療について知り、これからの自分の「こころざし」を考えるきっかけとなれば嬉しく思います。



5. 第1回「学校の先生とつながる会」開催／森町家庭医療クリニック 2026年8月20日(木)



森町家庭医療クリニックでは、地域の子どもたちを支えるため、教育・医療・福祉関係者が一堂に会する連携の場を継続してまいりました。今年度からは、学校現場との連携をさらに深めるため、会の名称を従来の「不登校・発達障害に関する情報共有会」から「学校の先生とつながる会」へと改称いたしました。その記念すべき第1回目の会を、令和8年8月20日(木)に当クリニックの大会議室にて開催いたしました。

当日は、小中学校の教員、教育委員会、教育支援センターの職員、行政(健康こども課・福祉課)の担当者、そし

て当院の医師、看護師、MSW、さらに医学生まで、子どもたちの支援に関わる多様な専門職が顔を揃えました。プログラムは2部構成で行われました。第1部では「支援学級の現場についての共有・ディスカッション」として、実践発表や講義を通じ、学校現場における具体的な取り組みや環境整備、可視化による支援の大切さを学びました。続く第2部では「多職種グループワーク」を実施し、日頃抱えている困りごとやそれぞれの役割について、立場を超えた率直な意見交換を行いました。

アンケートでは、「お互いの領域をいかに理解できていなかったかに気づけた」「顔の見える関係になれたのが大きな収穫」といった前向きな反響が多数寄せられました。時間が足りないと感じるほどの熱気に包まれ、地域全体で子どもたちを支える仕組みづくりの必要性を強く共有し合う、大変有意義な機会となりました。今後もこの繋がりを活かし、より実践的な連携体制の構築を目指してまいります。

(森町家庭医療クリニック 所長／棚橋 信子)

6. Instagram「静岡こあらの臨床サポート」

静岡県の総合病院で働く内科医「こあら先生」のアカウントです。2026年8月現在、投稿数は約350件、フォロワー数は約1.1万人。医師28年目の経験をもとに、日々の診療で役立つ知識や、ちょっと迷いやすいポイントを「ゆるく、わかりやすく」お届けしています。

Instagramはこちらからご覧ください ⇒ https://www.instagram.com/shizuoka_koara/



shizuoka_koara

静岡こあら臨床サポート

投稿346件 フォロワー1.1万人 フォロー中112人

医師

📍 気づけば28年目の総合内科医 | 静岡
📍 現場で役立つ知識をゆるくお届け
📍 研修医・若手ナースも歓迎
📍 深掘りはブログ「静岡こあらの覚え書き」へ
🌐 sizuokakoara.com

shizuoka_koaraより No.346 PSL 30mg/日で開始する時に考えること6つ shizuoka_koaraの臨床サポート	shizuoka_koaraより No.345 バルネノベリー1分で完成する冷たい栄養食 shizuoka_koaraの臨床サポート	shizuoka_koaraより No.344 今さらですがメルカゾール2.5mg錠 shizuoka_koaraの臨床サポート	shizuoka_koaraより No.343 熱中症だと思ったそのあとに shizuoka_koaraの臨床サポート	shizuoka_koaraより No.342 バルプロ酸とメロベネム併用は完全に禁忌ですよ shizuoka_koaraの臨床サポート	shizuoka_koaraより No.341 ピロリ除菌後PPIはいつ止める？ shizuoka_koaraの臨床サポート
shizuoka_koaraより No.340 今が血液培養の最後のチャンスかもしれない shizuoka_koaraの臨床サポート	shizuoka_koaraより No.339 梅毒の内服治療プロベネシド併用をどう考えるか shizuoka_koaraの臨床サポート	shizuoka_koaraより No.338 バクタを見たらカリウムを見る shizuoka_koaraの臨床サポート	shizuoka_koaraより No.337 看護必要度は医事課の見える化が鍵になる shizuoka_koaraの臨床サポート	shizuoka_koaraより No.336 クセ強すぎん？一瞬ビビる病名選手権 shizuoka_koaraの臨床サポート	shizuoka_koaraより No.335 針刺し事故後のB型肝炎感染予防マニュアルの工夫 shizuoka_koaraの臨床サポート
shizuoka_koaraより No.334 病気で弱った体はいつもの薬に負けることがある shizuoka_koaraの臨床サポート	shizuoka_koaraより No.333 持参薬は飲んでいる薬とは限らない shizuoka_koaraの臨床サポート	shizuoka_koaraより No.332 薬を3つ内服してLDL-C 208はどうする？ shizuoka_koaraの臨床サポート	shizuoka_koaraより No.331 メトホルミン錠添付文書によると下痢40.5%です shizuoka_koaraの臨床サポート	shizuoka_koaraより No.330 新人看護師が報告するべき便の3色 shizuoka_koaraの臨床サポート	shizuoka_koaraより No.329 徳洲会グループの理念変更をどう読むか shizuoka_koaraの臨床サポート

★岐阜県支部★

【活動報告】

1) GP-COMERnet (岐阜プライマリ・ケア・地域医療研究ネットワーク) 現地研修会

日時：2026年6月6日(土) 14:30~17:30

場所：市立恵那病院

今回の研修会には、県内各地から15名が集まり、自治医科大学公衆衛生学教授の阿江竜介教授をお招きして、「研

究魂に注入を」をテーマにご講演いただきました。

阿江教授のレクチャーでは、研究の疑問の立て方をレイザーラモン RG の「あるあるネタ」に例え、わかりやすく教えていただきました。日々の診療の中で「これってよくあるな」「なぜだろう」と感じることで、つまり「臨床あるある」の中にこそ研究の種が隠れているというお話は、研究を身近なものとして捉える大きなきっかけとなりました。

GP-COMERnet は、地域医療の現場から発信されるエビデンスが少ないという課題を背景に、地域の医療従事者が抱える疑問や問題を共有し、研究につなげることを目的として活動しています。今回の講演は、まさに「日常診療のちょっとした疑問を疑問として認識し、興味のあるテーマを研究へ発展させる」という GP-COMERnet の原点を再確認する機会となりました。

研究というと、特別な知識や大きなテーマが必要で、少し敷居が高いものと感じがちです。しかし、「あるある」を見つけ、「なぜ？」と立ち止まり、それを仲間と共有することから研究は始まる——阿江教授のお話を通じて、そんな研究の楽しさを改めて感じることができました。

GP-COMERnet では、診療所や病院から生まれた研究アイデアを持ち寄り、研究計画や解析方法について互いに支援するネットワークを構築しています。今回集まった 15 名の仲間とともに、日々の「あるある」を大切にしながら、地域医療の現場だからこそ見つけられる疑問を研究につなげ、地域から新たなエビデンスを発信していきたいと思います。



2) 第4回岐阜県総合診療専門研修プログラム指導者講習会

日時：2026年7月11日（土）14：00～16：30

場所：関中央病院

岐阜県内の各プログラム責任者および関連・連携施設の医師など、総勢 11 名が参加し、「診療報酬改定と地域医療構想から今後の総合診療医の在り方を考える」をテーマとした指導医講習会を開催しました。

今回の講習会では、まず医療政策が決定されるまでのプロセスを俯瞰し、直近の診療報酬改定や地域医療構想を通じて「国が今後の医療、とりわけ総合診療に何を期待しているのか」を読み解くレクチャーが行われました。マクロな視点から医療の動向を捉えることで、日々の診療や教育が社会全体の中でどのような位置づけにあるのかを再確認する貴重な機会となりました。

後半のディスカッションでは、学んだ政策の視点をベースに、岐阜県が現在直面している医療課題へと焦点を移し、活発な意見交換が行われました。社会構造の変化や医師偏在といった喫緊の課題に対し、それぞれの地域や施設で活躍する総合診療医がいかにして役割を果たし、連携していくべきか。立場を超えた指導医同士の率直な議論は、今後の研修プログラムのあり方を考える上でも大変有意義なものとなりました。



3) 2026 年度第 2 回ぎふ総合診療カンファレンス

日時：2026 年 6 月 10 日（水）20：00～21：00

開催：オンライン（Google Meet を使用）

参加：専攻医、指導医、医学生 2 名の計 9 名

テーマ：「医学教育」

内容：当プログラムの専攻医に医学教育についてのレクチャーを行いました。専攻医のローテート先は大学病院、急性期病院、地域診療所など多様ですが、教育をする機会があり、医学教育に関して実地での困りごとを聞きながら医学教育に関わるフレームワークなどを学習しました。実習における受け入れ体制や指導医および専攻医双方の視点から意見交換を実施しました。

4) 2026 年度第 3 回ぎふ総合診療カンファレンス

日時：2026 年 8 月 12 日（水）20：00～21：00

開催：オンライン（Google Meet を使用）

参加：専攻医、指導医など計 7 名

テーマ：「医療政策の決まり方・地域医療構想」

内容：マクロな視点から、我が国の医療政策がどのようなプロセスを経て策定・決定されているかについて解説を行いました。また、今年 7 月に発布された地域医療構想策定ガイドラインの内容を紹介し、域全体の医療ニーズの変化と、その中で総合診療医や専攻医が果たすべき役割について意見交換をしました。今回は、日常診療の枠組みを超え、医療政策や地域医療のあり方といったシステム全体を俯瞰するためのレクチャーとなりました。専攻医にとっては、将来の地域医療を担う上で必須となるマクロな視点を養う貴重な機会となり、指導医を交えた有意義な情報共有の場となりました。

●愛知支部

【活動報告】

名古屋市立大学 総合診療医学・総合内科学では、医学生、研修医を主な対象とした「ジェネラリストセミナー」を年に数回行っています。

今までの会場は学内でしたが、6 月は名古屋駅直結のビル内で開催いたしました。

講師は学外から藤沼康樹先生、中山明子先生、岩田大輔先生をお呼びし、学内からは永瀬裕一郎先生が講師を務めてくださいました。

医学生、研修医以外の先生、愛知県外からも数名ご参加いただき、セミナー後のアンケートでは、皆様から満足度

の高いご意見をいただく事ができました。

講師を務めてくださった先生方、参加者の皆様、ありがとうございました。

情報交換会では、参加者の方々が代わる代わる講師の先生と写真撮影をしたり談笑したり、輪がいくつかでき、楽しい時間が過ぎていきました。

次のジェネラリストセミナーは、詳細が決まり次第、教室のホームページ、SNS からご案内します。どうぞよろしくお願いいたします。



第 6 回名古屋市ジェネラリストセミナー2026 春

医療のスターが集う特別な一日！
開催日時：6月13日(土) 14:00～18:00
場所：名古屋大学ミッドタウン名駅サテライト セミナー室
JP タワー名古屋 5 階
愛知県名古屋市中村区名駅一丁目1番1号
医療現場で役立つ最新情報やノウハウが満載
(終了後 情報交換会を予定)
主な対象者：研修医、医学生(先着 50 名)
参加費：無料

【プログラム】

14:00-14:30 「輸入感染症の診かた・考え方」
永瀬 裕一郎 (名古屋大学 感染症学助教)
14:30-15:00 「血液ガスの視方を身につける ― 外来・救急・病棟で使える実践講義」
岩田大輔 (洛和会丸田町病院 救急・総合診療科)
15:20-16:00 「妊娠・産後の基本 ― 知っておきたい処方と相談対応」
中山明子 (日本プライマリ・ケア連合学会認定 家庭医療専門医)
16:00-17:00 「外来・在宅診療で役に立つ家庭医療学の考え方」
藤沼康樹 (医療福祉生協連 家庭医療学開発センター長)
17:00-17:30 総合ディスカッション・医局説明会
17:30- 情報交換会
申込方法：下記 URL もしくは QR コードから
<https://forms.gle/ZN6rHNDcy6REKhP96>
申込期限：6月6日正午
対象者：研修医、医学生
【問合せ先】 総合診療医学・総合内科学 医局 052-853-8527
もしくは ML でご連絡ください。 事務(TEL)：gm.sac1@med.nagoya-cu.ac.jp



●中部ブロック薬剤師部会

【活動報告と案内】

「中部ブロック薬剤師部会」懇親会 (第 17 回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会：京都)

日時：2026 年 5 月 30 日 (土) 19:00～ 8 人参加

大会間際の案内にも関わらず、現地参加の方々にご参加いただきました。

並行して運用していた LINE「オープンチャット」で連絡を取り合いながら、初顔合わせで、充実した懇親となりました。

いろいろな会席・会合もある機会でもあり、途中で抜けた方もいましたが、写真はお店を出た時のメンバーです。



日時：2026年7月23日（木）21:00～ 14人

第7回 中部ブロック薬剤師部会ミーティング
2026年7月23日（木）21時 ZOOMにて

① ポートフォリオから学ぼう

石川の折戸先生からポートフォリオを発表していただきます。ポートフォリオを通して、他の薬剤師の仕事を知り、視点を共有し、知識を確成し、お互いに学えれば良いなと思います。更にショーケースポートフォリオとしてより良いものにするアイデアを出し合えれば最高です。

② がんサバイバーシップに薬剤師がどう関わるか？

静岡の眞先生より実際の話提供を頂きます。プライマリ・ケアを担う薬剤師に気づきを頂けるものと思います。各人の意見も交換できると良いと思います。

**中部ブロック（静岡・愛知・三重・岐阜・福井・石川・富山）に在籍する
プライマリ・ケアに関心のある薬剤師ならどなたでも参加できます。**
是非ご参加ください。

Zoom 参加アドレス
<https://us06web.zoom.us/j/84477060439?pwd=R6osQ7ZWVF4UZXc0Cj9NVPO89ypLQ4b.1>
ミーティング ID: 844 7706 0439 パスコード: 249419



第8回中部ブロック薬剤師部会ミーティング

日時：2026年9月25日（金）21:00～予定

第8回 中部ブロック薬剤師部会ミーティング
2026年9月25日（金）21時 Zoomにて

①ポートフォリオ・ショーケースポートフォリオとは？

とりあえずポートフォリオを書いていみましょう！

小川（岐阜）からポートフォリオとは何か？ショーケースポートフォリオとは何か？ということを手帳にお話しさせていただきます。そして天白先生（愛知）より実際の事例を提供していただき、参加者が意見交換しながらポートフォリオ（の一例）に落とし込めたらいいな、と思います。事例を振り返つつ、アウトカムを意識した日常業務が身につけば最高です。

②日常のよもやま話

日常業務の相談、活動報告などぜひ皆さんに交流を深めましょう。

**中部ブロック（静岡・愛知・三重・岐阜・福井・石川・富山）に在籍する
プライマリ・ケアに関心のある薬剤師ならどなたでも参加できます。**
是非ご参加ください。

Zoom 参加アドレス
<https://us06web.zoom.us/j/83637046667?pwd=BnFL7y3Bb3BPRyc9cnBrtSaF3NoXZ.1>
ミーティング ID: 836 3704 6667 パスコード: 492643



【メーリングリストによるメールについて】

中部ブロックに居住する JPCA 会員の中で薬剤師と薬学生を対象としたメーリングリストによるメール配信が 2026 年 3 月から開始しています。

届いていない場合は、迷惑メールに振り分けられている可能性がありますので、そちらをご確認ください。

送信元：プライマリケア中部ブロック薬剤師会世話人 <jpca.chubu.sewanin.ph@gmail.com>
jpca_chubu_ph@umin.ac.jp

メールタイトル：[jpca_chubu_ph:000〇〇〇] 日本プライマリ・ケア連合学会「中部ブロック薬剤師部会」からの
お知らせ (No. 〇)

(文責：世話人一同)

<支部運営についての情報>

●各県の代表窓口

三重県；山本憲彦、富山県；三浦太郎、石川県；中橋毅、岐阜県；森田浩之、福井県；林寛之、
静岡県；井上真智子、愛知県；宮崎 景

●プログラム責任者の会中部ブロック代表；大浦誠

●中部ブロックの活動に関するご意見等ありましたら下記までご連絡ください
中部ブロック支部事務局 gm.sec1@med.nagoya-cu.ac.jp